伸銅品

平成18年度の伸銅品需要は、102万7千トンと前年度比2.8%増が見込まれている。

銅板条は自動車向けの高水準持続と、若干まだら模様ながら半導体の回復傾向が期待される。その他分野も概ね底堅さを維持も建材は厳しいまま。

銅管は国内エアコン市場規模はほぼ横ばいも、アウトインの増加でルームエアコン国内生産は縮小傾向、業務用エアコンは堅調持続。一方、冷媒配管と建築管市場、銅管輸出は少し苦戦か。

黄銅板条は自動車向けの堅調と民生部品の微増が下支えるが、その他分野は輸入圧力もあり弱含み。一方僚品との能力制約があり、国内品は品薄傾向継続。

黄銅棒は自動車・電機向けを始め、ガス機器、バルブ、文具など紐付き需要を中心に底堅い動きにある。また既存製品の代替ながらカドミレス棒の拡大が進んでおり、環境対応品への展開も期待。

青銅板条は携帯電話、デジタル家電、半導体、自動車向けなど増量要求が強まっている。特に海外市場の勢いが強く、下期の調整も軽微の見込み。

電　線

平成18年度の銅電線・ケーブル需要見通しは89万1千トン・対前年度比プラス3.0%で、4年連続して増加する見通しとなった。

通信部門は、光化の進展でNTTのメタルへの投資は低水準で推移しているが、一定規模の需要はあると見込み微減と予測した。

電力部門は、17年度に長期減少傾向に歯止めがかかったが、引き続き電力会社の設備増強が実施されると見て若干の増加を見込んだ。

電気機械部門は、自動車生産好調を受け電装品は伸びるが、重電、電子通信向けは本格回復には至らず、海外シフト進展で家電向けが減少と見込み、全体では若干増と予測した。

自動車部門は、自動車生産台数と使用電線原単位増加により、電線需要量は5年連続増加し、過去最高となる見通し。

建設・電販部門は、17年度に引き続き民間企業設備投資が高水準を維持すると見込み、4.2%増、40万トンを超えると予測した。これは過去最高の出荷量となる。

その他内需部門も、民間企業設備投資動向と関連があり、若干の増加を見込んだ。

輸出部門は、現地生産化進展、価格競争激化等厳しさはあるが、中国、アジア、米国向けが堅調で引き続き需要は伸びると予測した。

鉱　山

平成17暦年の我が国の電気銅生産は1.1%増の139万5千トンであった。精鉱品位の低下と直島、佐賀関製錬所の大型定修による減産が新居浜製錬所の能力増強で相殺されたが、2年連続で140万トンを割り込んだ。

消費は報告値が2.5%減の119万9千トン、過欠補正後の見掛値は4.5%減の122万1千トンと4年ぶりの減少となった。

平成17年の我が国経済は企業収益の改善で設備投資が堅調を持続し、個人消費は緩やかに増加、雇用情勢も改善傾向を辿り、輸出、生産が持ち直すなど、緩やかながら回復軌道を辿った。こうした経済環境下、銅の主要な需要産業のうち建設、自動車が前年に引き続き好調に推移する一方で、IT産業は年前半にかけて在庫調整局面に見舞われたが、後半は急回復した。

電気銅の用途別消費は（報告値）は電線向けが1.0%減の75万2千トン、伸銅品向けは2.8%減の43万4千トンと、IT財の在庫調整の影響を受けた。

生産増、消費減のため輸入は15.5%減の7万4千トンと昭和40年以来の低水準にとどまり、輸出は30.3千トンと4年ぶりに増加に転じた。

この結果、在庫は10万5千トンから10万トンへと5.0%減少し、在庫／消費比率は4.3週間分と年間を通じてタイトに推移した。

平成18年度伸銅品需要見通し　単位：千トン

品種＼年度		17年度実績	18年度見通し 上期	18年度見通し 下期	18年度見通し 合計	前年度比 %
銅	板条	275.2	138.0	142.8	280.8	2.0
	管	170.5	88.0	82.0	170.0	▲ 0.3
	棒線	44.9	22.4	22.8	45.2	0.7
黄銅	板条	141.1	73.2	74.2	147.4	4.5
	管	16.0	7.7	8.0	15.7	▲ 1.7
	棒	241.8	126.0	129.0	255.0	5.5
	線	37.9	19.0	18.4	37.4	▲ 1.3
青銅	板条	52.9	28.5	27.9	56.4	6.5
	棒線	5.2	2.6	2.6	5.2	0.6
その他		13.3	7.0	6.9	13.9	4.7
合計		998.8	512.4	514.6	1,027.0	2.8

（出典）経済産業省・日本伸銅協会

平成18年度銅電線・ケーブル需要見通し　単位：千トン

部門＼年度	17年度実績	18年度見通し 上期	18年度見通し 下期	18年度見通し 計	前年度比 %
通　信	19.1	9	10	19	▲0.5
電　力	71.0	36	36	72	1.4
電気機械	205.0	103	106	209	2.0
自動車	84.8	42	45	87	2.6
建設・電販	391.4	200	208	408	4.2
その他内需	60.2	30	31	61	1.3
内需計	831.4	420	436	856	3.0
輸　出	34.0	16	19	35	2.9
合　計	865.4	436	455	891	3.0

(注)前年比は数量を丸める前の原伸び率
(出典)電線工業会統計

平成17暦年電気銅需給実績　単位：千トン

	16暦年実績	17暦年 上期	17暦年 下期	17暦年 実績	前年比 %
期初在庫	110.5	105.1	113.3	105.1	▲ 4.9
生　産	1,380.1	685.5	709.8	1,395.3	1.1
国内鉱出	0.8	0.2	0.1	0.3	▲ 62.5
海外鉱出	1,187.7	598.9	628.3	1,227.2	3.3
その他出	191.6	86.4	81.4	167.8	▲ 12.4
輸　入	87.6	36.1	37.9	74.0	▲ 15.5
供給計	1,578.2	826.7	861.0	1,574.4	▲ 0.2
消費（報告値）	1,229.4	576.3	622.9	1,199.2	▲ 2.5
（見掛値）	1,278.5	586.6	634.4	1,221.0	▲ 4.5
電　線	759.4	352.4	399.2	751.6	▲ 1.0
伸銅品	446.0	217.7	215.8	433.5	▲ 2.8
その他	24.0	6.2	7.9	14.1	▲ 41.3
輸　出	194.6	126.8	126.8	253.6	30.3
需要計	1,424.0	703.1	749.7	1,452.8	2.0
期末在庫	105.1	113.3	99.8	99.8	▲ 5.0
過欠補正	49.1	10.3	11.5	21.8	

（出典）経済産業省